

地球環境保全試験研究費(地球一括計上)

施策の概要

国の研究機関(所管の研究機関を含む)を対象に、地球温暖化問題の解決に資する科学的知見の集積を通じ、行政課題の解決を科学的側面から支援することを目的に平成13年に創設。

・外部有識者委員による審査(事前・中間・事後評価)

特に、中長期的な視点から関係行政機関(所管の研究機関を含む)が主導的かつ着実に進めるべき研究を行う。

環境省の他の研究資金(地球環境研究総合推進費など)への成果の受け渡しにより、温暖化に関する研究の進展が効率的・効果的になることが期待される。

近年の成果

東アジアのハロゲン系温室効果ガスの排出を観測

タワーから大気の定期的な採取

現場での分析

分析データの時系列化

ピークの検出と東アジアの排出実態の解析

・波照間観測ステーションにおけるハロゲン系温室効果ガスの観測から、経年増加と中国・日本・台湾・韓国などからの影響による汚染ピークが認められた。

・波照間で観測される化合物の濃度変化を利用することにより、東アジアの地域ごとの排出量がある程度推定することが可能となった。
→たとえば中国からのHFC-23排出量は年間11Ggにのぼる可能性がある。

地球一括計上の成果は、気候変動予測の精度向上に大きく寄与

平成18年度から、地球温暖化の原因物質や直接的な影響を的確に把握する包括的な観測体制整備のため、「地球観測モニタリング支援型」を創設

長期的な観測を行うことにより、初めて見えてくる時系列の変動もあり、将来の地球環境研究にとって重要な基礎的な研究と観測調査である

「21世紀環境立国戦略」では、温暖化に関するモニタリングを長期に着実に実施することが明記されていることから、「地球一括計上」の果たす役割は大きい

IPCCの次期報告書への科学的知見の提供という観点からも、中長期的な視点に立った「地球一括計上」の成果は重要な役割を果たせる

モニタリングサイト1000

我が国の生態系の状態を長期的かつ定量的にモニタリングし、その異変をいち早く検出し、自然環境保全施策に資する。

生物多様性の「4つの危機」

森林調査

毎木、地上徘徊性甲虫、鳥類調査

サイト数 一覧

生態系分野	指標生物	サイト数
陸域	高山帯 植生 チョウ類 等	5
	森林・草原 樹木 地表徘徊性甲虫類 鳥類	466
	里地 草本植物 水環境 指標動物 等	197
陸水域	湖沼 植生 プランクトン ガンカモ 等	111
	砂浜 ウミガメ 等	41
海域	磯・干潟・ アマモ場・藻場 シギチドリ 底生生物 海藻・アマモ 等	149
	サンゴ礁 サンゴ オニヒトデ 等	24
	小島嶼 海鳥 等	30
合計		1023

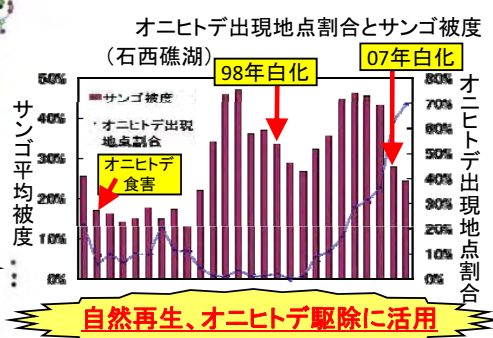
サイト位置図

1023サイト

- ・100年以上継続
- ・幅広い調査参加者 (のべ7000人/年)
- ・生態系の指標生物を定量的にモニタリング

サンゴ礁調査

サンゴ被度、オニヒトデ調査等



アジア・オセアニア地域におけるサンゴ礁保全に向けた 情報基盤整備事業

東アジアサミットで福田元総理が協力を発表 (H19年11月)

G8環境大臣会合で日本の取組として発表(H20年5月)

国際サンゴ礁保護区ネットワーク会議で方針決定(H20年11月)

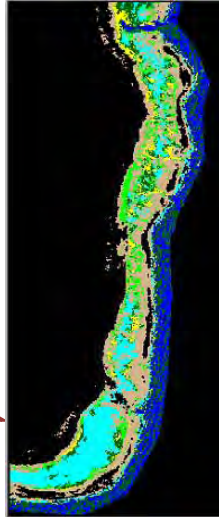
太平洋島サミットでサンゴ礁保全の取組として位置付け予定(H21年5月)



人工衛星だいちの画像取得

画像解析
1500シーン

現地調査
(10箇所)



サンゴ礁分布図の作製

十分に保全されていない
重要サンゴ礁の抽出

日本の貢献として
COP10で発表

「重要サンゴ礁
ネットワーク戦略」
の策定

海洋保護区の設置等
による保全の促進



アジア・オセアニア地域の サンゴ礁分布図の作製

海洋保護区
データベース
の活用

ICRI地域会合
H21年度

ICRI地域会合
H22年度

※ ICRI:国際サンゴ礁イニシアティブ

